

ルードヴィッヒ・ファン・ベートーヴェン

生誕 250 周年記念コンサートシリーズ

ピアノコンサート★



犬飼 新之介

Klaviersonate Nr. 19 g-Moll op. 49 Nr. 1 (1795/98)

Klaviersonate Nr. 22 F-Dur op. 54 (1804)

Klaviersonate Nr. 23 f-Moll op. 57

„Appassionata“ (1804)

F. Liszt-

Capriccio alla turca sur des motifs de Beethoven S.388

2020年9月27日(日) オンラインライブ 13時

Japanisches Kultur- und Sprachzentrum e.V.
Roßmarkt 13, 60311 Frankfurt am Main

入場・参加: 無料

オンライン  YouTube

皆様

コロナウィールスが世界中を席卷する中、日本文化普及センターは本年度実施予定の各行事を残念ではありますが中止にしております。

そこで、本年はルードヴィッヒ・ファン・ベートーヴェンの生誕 250 周年でもありますので、日本文化普及センターはフランクフルト日本法人会とフランクフルト独日協会との共催で、9月から12月末にかけて、3回シリーズでリアルとオンラインのハイブリッド形式でコンサートを実施することにしました。第1回は犬飼新之介さんのピアノコンサートを企画いたしましたので、ここにご案内いたします。

オンラインライブ参加ご希望の方：

9月27日（日）の13時からYouTubeのLivestreamでコンサートを視聴できます。

YouTubeのアクセスアドレス: <https://www.youtube.com/channel/UC1xdjOC5jkdmiYX2Z844Qgw>

犬飼新之介

1982年、浜松生まれ。ヤマハ音楽学校で4才児の早期音楽教育を受けたが、すぐにその並外れた才能が明らかになった。これはその後の彼の音楽教育過程でも確認され、さまざまなスタイルの莫大なクラシック音楽のレパートリーのみでなく、ジャズやポップミュージックと組み合わせる等、非常に稀な才能を示した。

それに加えて、彼は即興演奏の才能とテクニックもあり、ライブコンサートでは、非常に愉快でユニークにコンサートを盛り上げ、観客を楽しみ気分にさせる。

犬飼新之介は、2000年に桐朋学園音楽大学に入学し、卒業年には最優秀学生として選ばれ、皇居で天皇陛下の前で演奏をした。

その後、ヨーロッパでさらなる音楽教育を深め、ドイツ、フランクフルト音楽芸術大学でキャサリン・ヴィッカーズに師事し、コンサート試験（ドイツ演奏家国家資格取得コース）を優秀な成績で納めた。これは彼にとって画期的な成功に導くものだった。

犬飼新之介は、数多くの国内外のコンクールで優勝。中でも東京音楽コンクール（第1位）、スペインのハエン国際ピアノコンクール賞、ヘルシンキのマイ・リンドピアノコンクールなどで優秀賞を獲得。ドイツ、ボンでのルートヴィヒ・ヴァン・ベートーベンコンクール（テレコム主催）では第1ピアノ協奏曲を彼独特の解釈で演奏し第3位、同時に聴衆賞第1位を獲得した。その功績で、2014年のベートーベン・フェスティバルのオープニングコンサートで演奏した。

日本、ヨーロッパ、アラブ諸国での多数のピアノコンサートに出演する他、ソリストとして、有名なオーケストラと共演している。彼はまた、非常に優れた、信頼できる室内楽のパートナーとしても高く評価されている。

その他、犬飼新之介は、若手ピアニストのために日本でマイスタークラスを持ち、教鞭を取る傍ら、若者にクラシック音楽や他の音楽スタイルの起源を紹介することは、彼の得意とする分野でもある。